

北朝鮮の強制収容所をなくすアクションの会「NO FENCE」会報

NO FENCE

vol. 66 2020年8月

〒102-0093 千代田区平河町1-5-7-203

nofenceinfo@gmail.com

<http://nofence.jp/>



暑中お見舞い申し上げます。

中国の再教育収容所のドキュメント映画 『死靈魂』を観る！

2018年に作られた中国「反右派闘争」(1957年～1961-2年)の証言者の記録映画『死靈魂』(8時間半)の日本での上映が始まった。8月1日～14日東京。以下横浜、長野と全国で上映されると言う。しかし三部構成8時間半を一日で一挙上映(料金3900円)というのであるから、地方での上映もどのように具体化されるか関心を持って行きたい。世話人の山下誠氏紹介の読売新聞の記事で、この映画の上映を知り、8月5日一日かけて観ることが出来た。以下この映画の内容の簡単な紹介と、そこから得た私の最大の収穫と、この「反右派闘争」で19年間も労働改造所で生死の境をさまよったハリー・ウー氏(呉弘達氏)の体験記『ビター・ウインズ』(1995年刊、光文社)を再読して思ったことを、ここに綴らせていただく。

〈舞台はゴビ砂漠の中の再教育収容所、外国映画として作る〉 場所はゴ

ビ砂漠の中に作られた夾辺溝収容所(新添墩と明水の農場を合わせた再教育収容所)である。「被収容者は3200人。そのうち約500人が生き延びる。生存者は脱走したか、1961年1月に釈放される。彼らへの差別と迫害は文化大革命が終わるまで続き、1978年に大部分が名誉回復を果たした。」(映画パンフレットより)

1956年2月ソ連共産党第20回大会でフルシチョフがスターリン批判の演説を行う(スターリンは1953年3月死去)。中国でも一党独裁に対する批判が高まる。毛沢東はそれを奨励する。「百花斉放、百家争鳴」運動である。しかし毛沢東は1年後の1957年6月にそれを打ち切り、右派的発言を弾圧する「反右派闘争」が始まる。ゴビ砂漠

内に作られた夾辺溝収容所には中学校の先生たちが多く右派分子とされた人たちが再教育と称して収容され、7割近い人たちが、強制労働、栄養失調、病気、餓死で死んでいった。今年53歳の中国大陸の王兵監督が、2005年から2007年に証言を収録、10年たって2017年から追加収録し、完成させた。配給会社ムヴィオラ作成のパンフによれば、中国政府の検閲を受けないため、すべてが外国資本で作成し、従って中国国内で上映されていない。王兵監督は外国映画として制作する道を選んだことをパンフより知った。

〈三部構成、17人の証言、唯私は一人の餓死者の発言に注目〉 一人当

たりの証言が20分から25分と大変長い。大半が生き残った人の証言だけに説得力がある。17人中一人は収容所側の職員。一人は餓死者の妻。今一人は44歳で餓死した人物の右派的発言とされた内容と家族への手紙。したがって14人が幸存者としての証言で、職員と妻を含め15人が長い証言をする。一人20～25分の証言であるので、8時間半に及ぶ所以である。しかし私は手紙と発言だけで登場した44歳で獄死した裴紫豊氏の発言に注目した。第三部の午後7時半頃に登場し紹介された発言内容。「思想矯正とは人を疲弊させ抹殺する」という発言である。政治教育は切りがないという発言もそれに続いた。画面に左は氏が家族にあてた手紙が英訳されて流れ、右端に彼の右派的発言とされた発言がテロップとして縦書きで日本語に翻訳されて紹介された。私はその発言を見て、まさしくこれだ！再教育収容所の本質を突いていると直感した。思想矯正は殺人だという指摘が7時間近く証言されてきた証言を集約する命題であると私は受け止めたのである。私は『死靈魂』を観終わって渋谷駅に帰る道中裴紫豊氏のこの指摘を反芻した。王兵監督は17人の証言に優劣をつけることなく対等に扱ったとパンフで述べられていた。8時間半にわたる編集になったから、当然である。しかし、私は8時間半にわたる『死靈魂』の集約は「思想矯正とは殺人である」という裴紫豊氏の発言であると受け止めた。

〈強制労働で思想を変えることはできない〉 自分の思想がどのようにして形

成されたかを考えてみるがよい。青年時代に受けた教育、読んだ書物、参加した社会活動。こうした過程で形成された思想を、収容所に入れ、読書もさせず、自由な討論もさせず、一方的な政治教育で、反論も許さない環境で矯正させるということは、暴力であり、貧しい食事と強制労働を課すのでは、まさに殺人である。

〈ハリー・ウーの『ビターウインズ』を再読する〉 私は『死靈魂』を観終わって

20年前に読んだハリー・ウー著の『ビターウインズ』を思い出し、再読してみた。ハリー・ウー氏(呉弘達氏)は1955年北京地質学院に入学し、2年後に「百花齊放、百家争鳴」運動、1960年に「反革命右派分子呉弘達」と認定されて労働改造施設に送られ、なんと19年もそこで強制労働に従事させられる。集団農場を何か所もたらひ回しにされる。その体験記が『ビターウインズ』(NHK出版1995年)である。彼は上海の銀行の重役の息子として育ち、大学時代野球に打ち込み、政治活動には関心を示さなかった。典型的な反右派闘争の犠牲者であった。彼が入れられた収容所は『死靈魂』で取り上げられた収容所ではないが、その体験記はまさに同じである。私が裴紫豊氏

の指摘を思想矯正収容所の本質と理解したのは、20年前に『ビターウインズ』を読んでいたからであり、今回再読してみて心底それを痛感した。ハリー・ウー氏の『ビターウインズ』をお読みでない方には是非一読をお勧めしたい。また再読をお勧めしたい。最後に『死靈魂』を作られた王兵監督と今回日本上映を取行されている配給会社ムヴィオラの武井みゆき代表に、改めて感謝を申し上げたい(文責、小川 晴久)。



Harry Wu



Suzanne Sholte

〈資料紹介と報告〉去る8月12日、アメリカの北朝鮮人権活動家スザンネ・ショルテ

女史はソウルで文大統領に歴代米国大統領に仕えた高官たちの要請書を提出した。要請書の原文(英文)は別紙に印刷して同封する。最近の文在寅政権が韓国に亡命した脱北者たちの北朝鮮人権改善運動組織や韓国内の北朝鮮人権改善に取り組む市民組織を捜査する方針を出したことを強く批判し、その方針撤回を求める手紙である。ショルテさんたちは8月4日市民団体の連合の名で同様の趣旨の手紙を出し、続けて歴代政府高官の連名の要請行動に及んだのである。8月8日、ショルテさんから長年の友である私の所に賛同署名の要請のメールが届き、三役で相談し、NO FENCEを代表して賛同することにした。日本から賛同したNGOはNO FENCEだけであった。以下この要請手紙の本文を日本語に訳し(大意)、歴代高官の名前と仕えた大統領名だけを記し、詳しくは別紙の原文に譲る。賛同者(団体含む)は2・3指摘するに留める。

要請書本文 2020年8月12日 大韓民国 文在寅大統領閣下へ

——貴国政府による北朝鮮人権運動への抑圧に関して——

下記に署名した我々は、南朝鮮の人々とアメリカ合衆国との友好と強い連帯を高く評価する個人としてあなたにこの手紙を書いている。しかし我々は北朝鮮の人々の生命(生活)を救い、教育し、保護し、改善するために働いている全ての大きな組織をターゲットとして、北朝鮮人権運動を掘り崩すことを目的としているあなたの政府の行動に深く当惑している。我々はニクソン、フォード、カーター、両ブッシュ、オバマ、トランプ諸大統領を含む民主党、共和党の大統領の内閣で働いた個人であり、アメリカにおける政治的諸勢力にわたるNGOを代表しているが、我々は次の関心で一致している。即ち、北朝鮮の人々の人権を守ることは、国際社会、とりわけ韓国の責任であるという点である。国連の北朝鮮人権報告書(COI, 2014年2月)で述べられているように、「国際社会は北朝鮮の人々を人権侵害から守る責任を受け入れなければならない、なぜなら朝鮮民主主義共和国の政府は、はっきりとそれをするに失敗しているからである。」

特に国連COI報告書は勧告している、中国と全ての国は“本国に送還しない原則”を尊重し、したがって北朝鮮にいかなる個人も、強制的に送り返すことを禁止する、そして国家、団体、ビジネス企業も、人権侵害を記録し、自国の人々に接触可能な情報を広く知らせる努力を含む、北朝鮮の人権状況を改善する市民団体の活動により多く

の支援を提供することを。

韓国の以前の政府と違って、あなたの政府は二人の北朝鮮人を危険な条件にさらす送還を北朝鮮におこなうという異常なステップを取った。そして北朝鮮の人権改善のために働き、韓国にいる脱北者を保護する市民社会の団体を支援することを止めたばかりか、その活動を妨害している。国家統一部は7月の声明で、25の北朝鮮の人権と定着のために活動している市民団体の事務所の捜査を行うこと、64の基準に合格しているNGOに証拠書類の提出を要求した。これはこれらのNGOが北朝鮮の人権のために働いていることに対する脅迫である。

我々は丁重に要求する。朝鮮の人々を尊重しているアメリカ人として。あなたはあなたの政策を再考すること、強制的に北朝鮮の人々を危険な条件にある北朝鮮に二度と送還しないこと、また北朝鮮人権団体を脅迫し、苦しめるあなたの政策を見直し、代わりに北朝鮮の人々のために人権を促進する彼らの努力を助けサポートすることを要求する。

署名者 リチャード・アレン(レーガン大統領時)、ロベルタ・コーヘン(ニクソン大統領時)、ロバート G ジョセフ(ジョージ W ブッシュ大統領時)、ロバート R キング(オバマ大統領時)、ウインストン・ロード(ニクソン、フォード、ジョージwブッシュ、クリントン各大統領時)、バートン・W マルコス(ジョージ Wブッシュ大統領時)、チダル・W マッコイ(レーガン大統領時)、トーマス・C モンゴメリー((ジョージW ブッシュ大統領時)、アンドリュー・ナチオス(ジョージ W ブッシュ大統領時)、ダニエル・パイプス(レーガン大統領時)、ゲア・スミス(クリントン大統領時)、カトリーナ・ラントス・スウェット((オバマ大統領時)、クリスチャン・ウイットン(ジョージ W ブッシュ大統領時、トランプ大統領時) (以上13名)

この要請への賛同者がこの下に、スザンナ・シオルテさん以下44人と1団体の名が記される。(別紙参照)。この中にグREG・スカラチオウ氏、アンナ・ブルダ女史がいる。NOFENCE を代表して私がいいます。

※ 25の団体リスト

List of Organizations That Have Been Targeted

- | | |
|---|-----------|
| Center for Liberty and Reunification | |
| Hanananum | |
| Citizens' Alliance for North Korean Human Rights | 北朝鮮人権市民連合 |
| Transitional Justice Working Group | |
| North Korea Strategy Center | |
| Nochain for Northern Korea | |
| Lawyers for Human Rights and Unification of Korea | |
| National Development Institute (NDI) | |
| Unification Media Group | |
| Korean War Abductees' Family Union | |
| Unification Academy | |
| Network for North Korean Democracy and Human Rights | |
| Open North Korea (ONK) | |
| 1969 KAL Abductees' Families Association | |
| Free North Korea Radio | |
| Citizens' Coalition for Human Rights of Abductees and North Korean Refugees | |
| Association of the North Korean Defectors | |
| NK Intellectuals Solidarity (NKIS) | |
| Committee for the Democratization of North Korea | |
| NK People's Liberation Front | |
| Unification Future Solidarity | |
| Pen International North Korean Writers in Exile | |
| New Korea Women's Union | Center |
| Justice for North Korea | |
| Improving North Korean Human Rights Center | |

(注) 韓国が一番実績のある北朝鮮人権市民連合(故尹玄弘、金英子さんたち)のNGOを捜査の筆頭に挙げるのはもったいない(小川晴久)